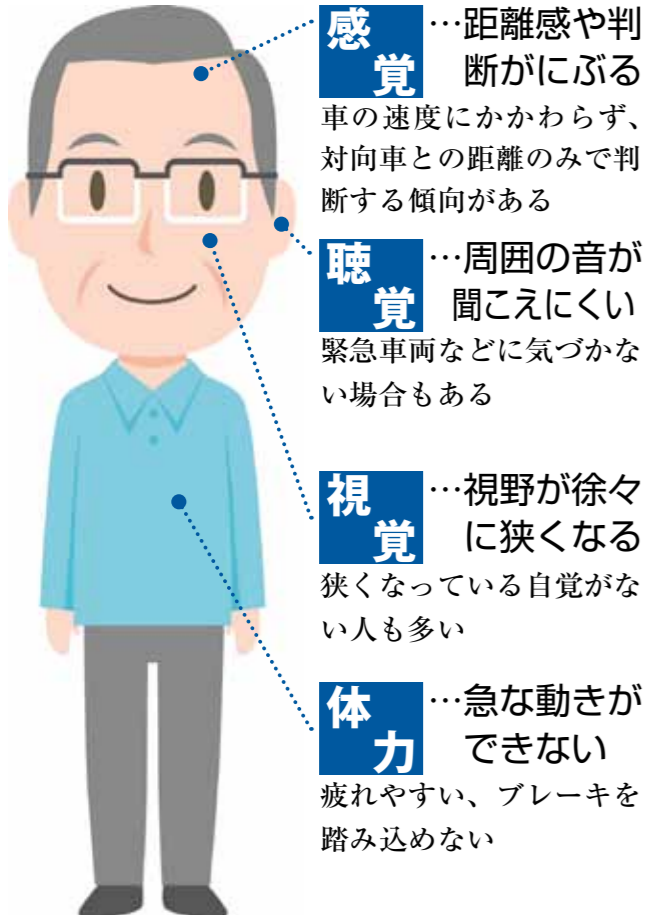


●加齢による身体機能の主な変化



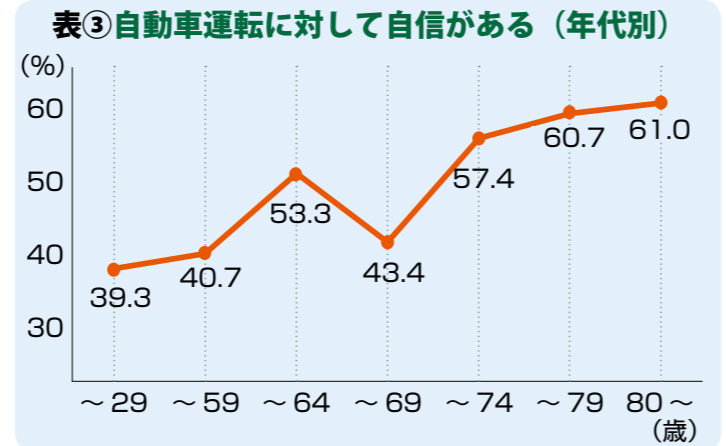
感覚 …距離感や判断がにぶる
車の速度にかかわらず、対向車との距離のみで判断する傾向がある

聴覚 …周囲の音が聞こえにくい
緊急車両などに気づかない場合もある

視覚 …視野が徐々に狭くなる
狭くなっている自覚がない人も多い

体力 …急な動きができない
疲れやすい、ブレーキを踏み込めない

高齢者の事故原因のひとつ「**身体機能低下**」と「**過信**」
個人差はありますが、年齢とともに身体機能は低下します。また、年齢が高くなるほど自分の運転技術に自信があると回答する人が多く、過剰な自信は、漫然運転や思い込み運転につながります。加齢により聴力、視力、疲労回復力、薄明反応、分析と判断力、瞬発反応力は低下することを自覚しましょう。その上で、自分の身体機能を適切に把握し、慣れや思い込み運転を行わないことが大切です。



参考:表③ MS&AD インターリスク総研株式会社「高齢者の自動車運転に関する実態と意識について」



安全に運転を続けたい高齢ドライバーのみなさまへ

制限運転を知っていますか？

高齢者ドライバーが当事者となる交通死亡事故が多く報道され、社会情勢とともに自動車運転免許証の更新も条件が厳しくなっています。しかし、地方では公共交通機関の不足により車無しでの生活は難しいのも現状です。本特集では、高齢ドライバーが安全に運転を続けるための1つの選択肢として「制限運転」を紹介します。

○問=危機管理課 Tel23-1175、小林警察署 Tel23-0110

県内・小林警察署管内の人身事故の状況

集計：平成31年(令和元年)1月~12月

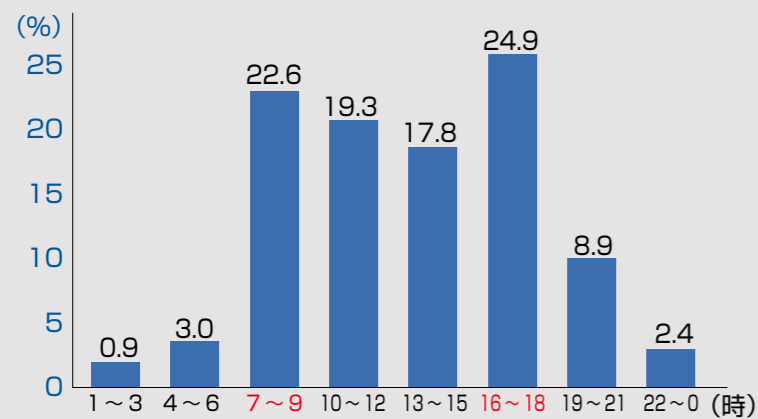
表④事故の件数

| 地域 | 人身事故 | | | 物損件数 |
|----|-------|-----|-------|--------|
| | 発生件数 | 死者数 | 負傷者数 | |
| 県内 | 6,621 | 39 | 7,432 | 23,563 |
| 管内 | 262 | 3 | 315 | 1,018 |

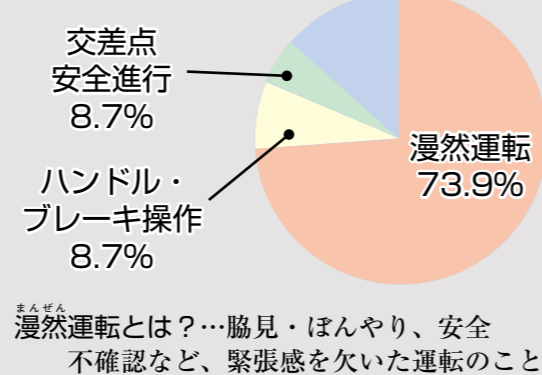
表⑤第一当事者年代別の事故件数

| 年代 | 10歳未満 | 10代 | 20代 | 30代 | 40代 |
|----|-------|-------|-------|-----|-------|
| 件数 | 1 | 274 | 1,120 | 989 | 1,018 |
| 年代 | 50代 | 60~64 | 65歳~ | 不明 | 合計 |
| 件数 | 838 | 480 | 1,882 | 19 | 6,621 |

表⑥発生時間帯別割合(県内)

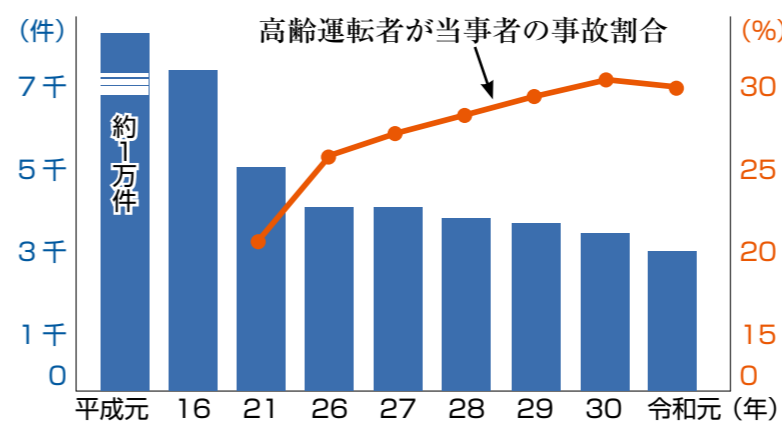


表⑦事故の原因



参考:表④~⑦ 宮崎県警「宮崎県内の交通事故発生状況」、「小林警察署の交通事故発生状況」

表①全国の交通死亡事故件数と高齢運転者による死亡事故割合



交通死亡事故は減少するも
高齢運転者による事故は増加
全国の交通事故による死者数は昭和45年ころの年間1万5千人をピークに減少し続けています。近年では道路環境の整備や、自動車の安全性の向上もあり、令和元年の死者数は年間3215人にまで減少しました。しかし、高齢(65歳以上)ドライバーが第一当事者(※)となる死亡事故の割合

表②運転免許保有者のうち65歳以上の割合が多い都道府県

| 順位 | 都道府県 | 運転免許保有者(人) | うち65歳以上(人) | 65歳以上の割合(%) |
|----|------|------------|------------|-------------|
| 1 | 高知県 | 475,868 | 141,273 | 29.7 |
| 2 | 秋田県 | 664,589 | 196,578 | 29.6 |
| 3 | 島根県 | 456,192 | 134,581 | 29.5 |
| 4 | 宮崎県 | 749,010 | 218,140 | 29.1 |
| 5 | 長野県 | 1,477,255 | 749,010 | 29.0 |
| - | 全国 | 約8,200万人 | 約1,880万人 | 22.9 |
| 47 | 東京都 | 8,060,579 | 1,183,337 | 14.7 |

は増加傾向にあります。
高齢ドライバーが当事者の交通死亡事故は「運転操作不適」・「漫然運転」・「安全不確認」を原因とした事故が多くを占めています。宮崎県では運転免許証を持っている人のうち、65歳以上の割合が約3割と全国でも高い比率となっています。
(※)最初に交通事故に関与した車両の運転者か歩行者で、事故における過失が重い者

参考:表①・② 警察庁統計

INTERVIEW
参加者の感想



上町北区 区長
にしやま しげる
西山 繁さん (76歳)

- **運転歴**
53年
- **日頃の運転目的**
仕事や買い物など
- **運転で気を付けていること**
子どもの道路横断や交差点付近、あとは一時停止にも注意しています。
- **制限運転の話聞いた感想**
夜間の運転や遠出を避けるなど、すぐできそうなこともありましたが、賛同者を多く募ってみんなで取り組みたいです。

一人ではなかなか続かない人も、同じ意識の仲間がいることで続けられることがあります。制限運転をみんなで取り組んでみようとする試みが、上町北区サロンで始まりました。取り組みに先立って、7月14日に小林警察署と小林地区交通安全協会の職員による交通安全や制限運転などについて、サロンの会員に説明が行われました。



チェックシートなどを活用して普段の運転を記録し、半年後を目途に制限運転の実施状況を数字で確認します。
※制限運転の実施は習慣づけ、継続することが目的ですので、罰則は特にありません。

団体での取り組みも始まりました！

みんなで取り組むことも継続のコツです！



自分で運転ルールを決め守ることが制限運転



📍 制限運転とは

自動車などの運転を継続する高齢者自身が、運転時間・場所・状況を選択し、事故が起こる可能性を低くすることで、交通事故を未然に防止する取り組みです。無理な運転をしない「制限運転」を実践し、運転能力が十分発揮できるように心身と環境を整えましょう。(※制限運転は“補償運転”とも呼ばれています)

制限運転のパターン

- 時間と心に余裕を持った運転に努める
- 体調が悪いときは運転を控える
- 夜間、早朝、夕方の運転は控える
- 通勤・通学時間帯の運転を控える
- 運転するコースは事前に決める
- 遠距離・高速道路の運転を控える
- 雨や雪の日の運転を控える

運転をしない時間帯や場所
状況を決めて、気持ちと体の余裕
があるときに運転することで交通
事故を避ける



交通事故を未然に防ぐことは、自分や相手だけでなく、家族や周りの人を守ることにもつながります。ぜひ、この機会に自動車等の運転について家族・友人と話してみましょう。



INTERVIEW
専門家の話



小林警察署 交通課
きくち ともあき
菊地 智章 課長

**制限運転をおこないつつも
運転に不安がある人はまず相談を**

交通警察に携わり約15年になりますが、これまで悲惨な交通事故で被害者、加害者のみならず、その家族が苦しむ様子をたくさん目の当たりにしてきました。その度に、車は便利な乗り物である反面、一瞬にして人の命を奪う凶器になってしまうと痛感しています。「制限運転」は、生活の足として車の必要性が高い小林市で、より長く、運転と付き合っていく有効な方法であり、コロナ禍での「新しい生活様式」にも対応できるものだと思います。ただし、制限運転で全ての交通事故を抑止できるわけではありません。運転に不安を抱えている人や、自身で運転リスクが高まっていると思われる人は、専門員が運転に関する相談に応じる『安全運転相談ダイヤル』の活用や運転免許証の自主返納も検討していただきたいと思います。

自分自身、そして大切な家族のためにも、この機会に運転の在り方を見直してみたいはいかがでしょうか。

交通安全を促進する「安全運転相談ダイヤル（運転免許センター）」
シャープハレバレ
#8080

取材協力：宮崎県警小林警察署